

道路脇で工事中に通行車両が突込み、死亡！

— 思わぬ貫い事故にどう対処？ —

☆ 平成22年7月27日（火）午後3時40分ころ、仙台市泉区朴沢の国道457号線の脇で電話工事中の作業員（男性・57歳）が、走ってきた乗用車にはねられ死亡しました。

☆ 工事はNTT発注の電話線用電柱設置工事で、施工者は東北で事業展開する地場店社です。

☆ この工事での電柱設置本数は1本だけで作業は被災当日のみの予定でした。

☆ 国道457号はこの付近で南北に走っており、南は仙台方面、北は大和町宮床方面へ向かいます。

道路幅は片側3m（往復で6m）で、道路東側には白線で区分された1m幅の歩道があり、このすぐ東側で作業が行われていました。

☆ 事故時には、電柱を建てるため被災者ら二人の作業員がスコップで穴を掘っていました。

ここへ北から走って来た乗用車（67歳・男性運転）が突っ込んで被災者をはね、そのまま20m強ほど走り、先にある商店のブロック塀に衝突、塀の一部を壊して停止したものです。

被災者はこの事故により作業地点から20m以上先まで飛ばされました（跳ね飛ばされたものかボンネットにあがって運ばれたものかは不明）。また、運転者も負傷し現在入院中とのことです。

☆ 作業箇所には、100m及び50m手前（北）に工事中の標示板、作業箇所北側に矢印標示板、交通誘導員、カラーコーンが配置されていました。（このほか建柱時の誘導要員1名待機中）

★ 発生箇所付近の道路はゆるいカーブとなっていますが、加害車は直進のまま突っ込んでいます。

★ その理由は現在不明ですが、一般的な可能性として、脇見運転、車内で物を落とし拾おうとした、携帯電話で話しに気をとられた、運転中に脳心疾患等を発症した、等が考えられます。

■ 本件のような工事内容の例で飛び込まれ事故を防ぐ方法は大変難しいことと言えますが、前述の原因で事故発生に至ることは十分考えられます。また、筆者の現地取材時刻（平日17時）は交通量も少なくなく、①体感リング設置、②手前に規制車を置く、③クッションドラム設置などの自衛対策の検討も望まれます。

● これで宮城県内建設業における本年の死亡災害は4名となりました。

